

新技術調査・研究事業で見学会

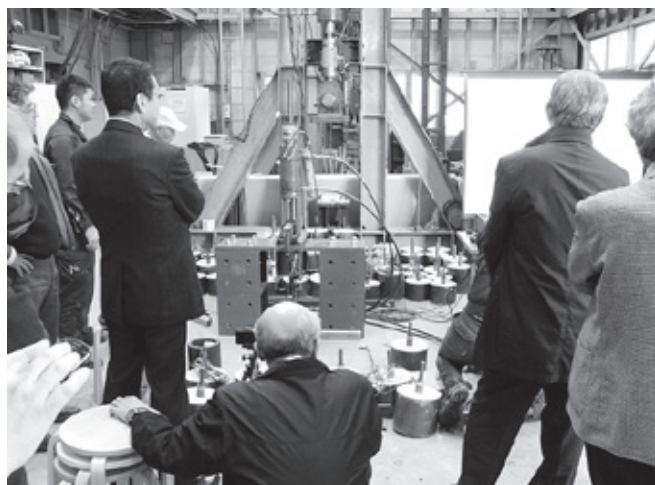
自家発の耐震性能調査

内発協では、平成24年4月から「自家発電設備の耐震性能調査分科会」を設置し、「自家発電設備の耐震性能調査」における、あと施工アンカーの調査・実験を行っている。平成25年度は、接着系あと施工アンカーボルトについて引抜き力を調べるための引抜き実験及び接着力を調べるための付着実験を行っている。

その一環として、11月13日、サンコーテクノ(株)で、耐震性能調査分科会幹事会委員10名及び事務局4名にて、あと施工アンカーボルトの引抜き実験を見学した。

次いで、12月6日、千葉工業大学で、耐震

性能調査分科会幹事会委員10名、新技術調査・研究専門委員会委員2名及び事務局4名にて接着系あと施工アンカーボルトの付着実験を見学した。



バイオ燃料の自家発適合性調査

内発協では、「バイオディーゼル燃料等の自家発電設備への適合性調査」として、琵琶湖カントリー倶楽部にて、廃食油を原料としたバイオディーゼル燃料100%を用いた自家発電設備の実証運転に取り組んでいる。昨年7月から今年11月をもって運転時間4,062時間に到達し、当初計画の実証運転は完了となった。現在、バイオディーゼル燃料による影響を調査するため、実証試験機の原動機を分解調査している。

12月3日、ヤンマー(株)グローバル研修センターで、新技術調査・研究専門委員会委員11名、会員会社1名、行政機関2名、事務局3名にて実証運転を完了した実証試験機の分解調

査等を見学した。現在も調査中であるが、分解した原動機を見学した限りでは、運転に支障を及ぼすような重大な不適合は認められなかった。

(15ページに関連記事)

